

杉並景観録

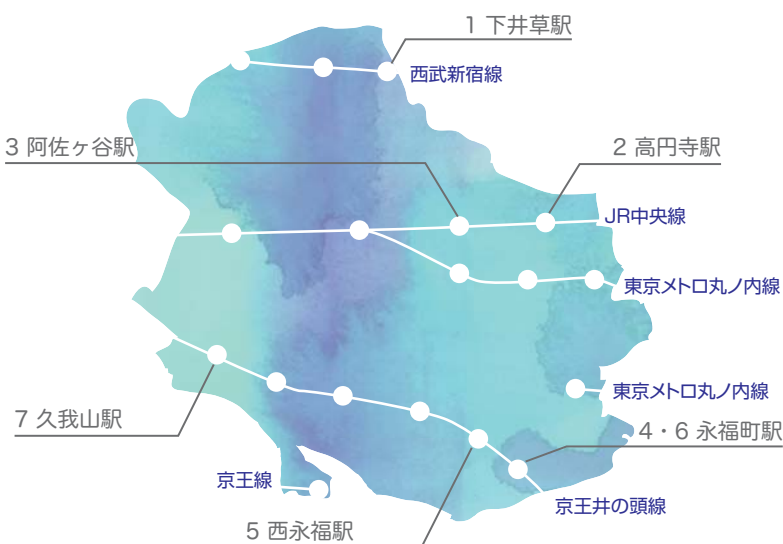
SUGINAMI Keikan-Roku

第十七号



SUGINAMI CITY

●発行日 平成24年3月27日
●発行 杉並区都市整備部まちづくり推進課
TEL.3312-2111(代)



新しいまちの「顔」

誰もが普段から何気なく使っている鉄道の駅。区内には、5つの沿線に18の駅があります。

駅は、それぞれの地域に個性を与え、まちの「顔」をつくっています。

駅周辺の商店街は、そこに住む人々に支えられて、まちに賑わいをもたらします。その背後には静かな雰囲気のある住宅地が息づいており、地域の発展の歴史を反映しながら、それぞれの駅ごとに特徴あるまちなみを形成しています。

まちの「顔」となっている駅は、まちの玄関として駅前の景観に大きく影響をあたえ、視覚的にそのまちを印象付けています。

「顔」の表情が変われば、まちの表情も変わります。駅や駅前広場が新しくなるとちよつとくさくさした気分になります。その変化が生き生きとしたものとなるように、まちなみとの調和に配慮していくことも必要です。

新しい「顔」が、それぞれのまちに新しい元気を与えてくれるようになります。

すぎなみ／ひと／まちなみ SPECIAL EDITION

基調講演

「色彩計画と まちの景観デザインについて」



田邊 学さん
杉並区まちづくり景観審議委員
關カラープランニングセンター
代表取締役

引き算の景観づくり

景観の色彩を考えていく時に、最も重要なことは色の鮮やかさ加減と関係しています。「鮮やかさ」に着目しながら中杉通りを歩いた感じでお話します。今の中杉通りは引き算をしてあげた風景かなと思います。新しい建物が建てば新しい色が加わっていく。そこにお店が入ればお店の看板も付いて、さらに隣が看板をだせばうちも負けてはいられないと看板をだすような循環があり、どんどん派手なものになっていく。まち全体の落ち着いた中に非常に鮮やかな色がポツポツとでてくる。いい色も沢山あります。歩道の舗装の色などはセメントのいい色だとも思います。地味な色ですが落ち着いていて風格があります。けやきの枯葉よりもさらに穏やかな色、枯葉が落ちていても気がつくというふうな、非常に繊細な色使いです。まちなみも落ち着いた暖かい雰囲気の色でまわっています。

また、中杉通りの特徴は看板が小さく、非常に工夫されています。素敵な看板が沢山あって、小さくてもお店の人の顔が思い浮かぶようなものがあります。コンビニエンスストアも看板を変えていたり、レンタルビデオ店も茶色の看板をつけていたり、けやき並木を意識した引き算された良い看板だとも思います。このように地元の人や頑張れば大手の人でもそれに追随すると思います。

今のまちは、足し算で新しいものを増やしてきてきたところがありますので、色の景観という意味では少し引き算をしてみることも大事だと思います。

整える景観づくり

景観とは日々の暮らしの蓄積が本来の姿だとも思いますので、自分のお店や自分の周りだけでなく、周囲の色、デザインに興味を持ってもらうことが大事なことだとも思います。中杉通りのようにある程度できあがったまちの場合は整えるという感覚がすごく大事だとも思います。整えるというのはひとりではなくて、皆さんで協力して、お互いに譲り合いながらでないとつれないとも思います。

「中杉通り周辺のまちの現状」 (昨年度行った基礎調査の結果から)



中川 智之さん
世田谷区せたがや風景デザイナー
關アルテック代表取締役社長

早稲田通りから青梅街道までの中杉通りを対象に、目視調査と建物階数や用途、視覚的特徴、課題を調査した結果の報告をします。

景観の特性は、南阿佐ヶ谷駅周辺のゾーンは高層化されており、建物の足元には賑わいもあります。阿佐ヶ谷駅周辺のゾーンは、賑わいはありますが、まだ古い建物もあり、新しくなる可能性もある所です。阿佐ヶ谷駅から北側のゾーンは住宅地の趣があり、落ち着いた空間になっています。

次に個別の課題や特徴は、けやきが葉をつけている状態では、高い建物がそんなに目立たないですが、秋、冬になって葉が落ちると目立つてくるので、景観を考えると高さをスライズをどう考えるかもひとつの課題と考えます。

形態意匠や色彩について、計画設計者も非常に通りを大事しているケースが多く見つけられます。通りの賑わいを生かし、足元周りと上層階で、何かを変えたいという手法をとりながら個性化しています。商業ビルがあるということも、広告が必要になってきますが、袖看板、屋上看板が非常に多いので、これをうまくコントロールしていくことも景観的に重要なことだと考えています。また、ごみ置き場、空調の室外機、駐輪場などが景観を阻害している要素になっていきます。

パネルディスカッション

コーディネーター

- 倉田 直道さん (工学院大学建築学部教授)
- 田邊 学さん
- 和博 幸さん (樹木医、公益財団法人日本花の会)
- 小川 勝久さん (マイタウン阿佐ヶ谷協議会会長)
- 中川 智之さん



小川 勝久さん
昭和29年に地元の方々の寄付でけやきを植えたという歴史があります。けやきを今後50年良い状況で管理していくために、100メートルのモデル地区を決めて、5年間で少し整理をしていくという話がすすんでいます。

中川 中杉通りのけやきは、他のけやき並木と比較して間隔が狭くてコンパクトな感じがします。それは道路幅や歩道が狭い、ビルが集まっているという中で生育しているのもそういう形になっています。街路樹を安全かどうかの観点で見ますが、けやき並木に寄せる地域の方の思いとか、文化が、個性になるということも非常に重要だと思います。このまちなみづくりは個性化のなかで、あるものをどう活用するかを考えていくことが必要だとも思います。

景観シンポジウム 中杉通り・けやき並木を 生かした景観デザイン

中杉通りを魅力あるまちなみとするにはどのようなことに注目していく必要があるのでしょうか。建物の外観や色彩、屋外広告物などがどのような影響を与えるのでしょうか。けやき並木との関係性も含めて、中杉通りの景観まちづくりについて考えるパネルディスカッションによるシンポジウムを開催しました。(平成23年11月9日、産業商工会館3階講堂にて)

倉田 中杉通りは私もよく歩いていますが、夏の木陰は快適ですし、目に緑がはいると気分が癒されます。歩いて楽しいまちであると考えたときに、並木だけでなく、沿道の建物とか、お店とかがより歩かしたいというところが、歩道がより快適に歩けるような状況であればと考えます。



中杉通り (夏)

中川 沿道の快適性をどのようにつくっていくか、敷地の中に建物を建てる時にどういう形にするか、くるか、ということがあると思います。例えば建物をセットバックしながら、狭い歩道に面しているけれど通りに向かってカフェの椅子を置いて、お茶が飲めるような空間とし、雰囲気を出していることがあります。また、景観の取り組みだけでなく、交通計画の見直しも含めて考えていくと、違う取り組みができるのではないかと考えます。

倉田 学生たちとどうしたら歩いて楽しい快適な中杉通りが実現するかと話していたときに、少しでも歩道が広がらないかという話になりました。

将来のまちのありかた、つなげかたを考えることも必要があるのかなとも思います。

まちが育てるリーダー

小川 私は、まちが人が育てるもので、そのリーダーを育てるのはまちの人たちだとも思っています。やはり地域の人たちがこういうまちにしたいという気持ちで伝わらないと人が育たない。

いろいろ話をしても、皆さん考え方があって、どう決断されるかわかりませんが、最後は人だとも思っています。そういう人をどうやって地域が育てるか一番大事だとも思っています。

倉田 商店街の周りに住宅地があるので、商店街だけでなく、住宅地の人たちと一緒に、広い意味でのまちづくりをやる必要があるとも思っています。

花のまちづくり



和田 博幸さん
さとう市民活動で、身近な所に花を植えて、自分が楽しんで花を楽しくして、外から見て花を楽しんでもらう活動をしています。

このけやき並木を区民の人たちがなんとかしようとしても、なかなか難しいとも思っていますけれど、花をそこに少し植えるということであればできると思います。花の良いところは、通りがかりの人が綺麗です。花を植えてくれたりとか、この花何て言うのですかという会話が始まります。景観的にもけやき並木に彩りが加わるということになります。花を添えるということが、景観とか環境とかにも活動が広がっていくことで、実は大きな社会的意味をもっているとも思っています。

花を添えるということは周りの汚いものが目立ってきます。花を綺麗に見せるには目障りなものを除去していく活動が生まれてきて、プラスの循環になる。こういう運動は住民の手でできる運動だとも思っています。

倉田 建て替えなどのときに、中杉通りらしいまちなみをつくるという考えで、どんな配慮をしたら良いか、少しルールやガイドラインがあると、それがさらに中杉通りの魅力を高めることにもつながっていくとも思っています。

中川 建物の足元となる1階や2階のしつらえを誘導していくことが必要だとも思っています。建物の高さとか位置だけでなく、足元に映える店舗などをうまく誘導して賑わいの連続性を保つのもひとつのポイントだとも思っています。

また、建物の高さで言えば、決して高いものが悪いのではなく、調和のとれたスライズをけやき並木の高さとバランスをとりながら、建物の高さや壁面の位置をゆるやかにルール化することで、将来的にある種のまちの姿を誘導していくことも重要だとも思っています。



倉田 直道さん
豊かな緑のけやき並木があるところだからこそ、普通は1階が商業の可能性が高いんですけど、実は2階の高さまで行くのもっと緑が目に入って、2階を積極的に使ってもらいのではないかと、学生たちが気が付いていたのを思い出しました。

田邊 歩行者は目の前の大体9メートル先の道路を見ながら、視野は60度位で歩いているそうです。人間が常に見ているのは建物の3階位までで、3階より下の部分でいかに商業的な工夫をするかが勝負どころです。いま、中杉通りはそこを隠しています。先ほど2階を利用するつもりでしたが、3階



中杉通り周辺の看板



中杉通り (冬)

以下でこだわってやってみよう。また、看板は統一される必要はなく、一定の水進が保たれることが大事で、それぞれに工夫がされて、見て楽しいこだわりの見えるということが非常に大事な気がしています。

小川 中杉通りではけやきがトンネルになる夏の間は、横断歩道の真ん中から南北を見るのが一番です。冬も見て欲しいし、新緑のもえぎ色というのはとても綺麗です。紅葉も綺麗です。

倉田 視点場というのは誰かがつくるのでなく自分で見つけるという楽しさもあると思います。特に並木の場合は特定の箇所で見るといいよりは、移動するなかでまちなみの変化も含めて楽しむということがあると思います。

魅力あるまちなみができて利用しなくてもいいことで、並木を見ただけでも楽しいですが、プラスしてまちに来て楽しい時間や過ごせる場所があるということも、まちなみづくりには大事なことです。けやき並木をどうするか、並木を生かしてどういう活動をするかも大事なことで、自分も大事なこととも思っています。



パネルディスカッション

本日は、皆さんの中杉通りへの思いをいろいろお聴かせいただけましたので、景観を中心にしたまちづくりの生かされたらなとも思っています。

アンケート結果 当日参加された方からのご意見です

- 看板が邪魔。でも商売に必要になりやすい。難しい。
- 阿佐谷の住人にとってステータスである、このけやき通りをもっと有効に活用し、かつ、環境整備し、他地区の人々にも来てもらえるように、魅力ある通りにするためにどうすればよいかを考えたい。
- 中杉通りに関する景観デザインから、まちづくりにまで話が及んだシンポジウムだと思いました。これらの問題はすぐには答えが出ず、また、多くの方々の考え方もありますので、難しい。中杉通りを見直す点で良いシンポジウムだとも思いました。
- 中杉通りに住んでいる者として、色の大切さを知りました。魅力的にすることによって、資産価値が上がるという、全体のことを考えることで、自分も得をするというお話を感しました。

ケヤキのトンネルを 50年後も守り育てるために

東京都は、中杉通りのケヤキ並木について将来にわたり良好な管理を進めるため、杉並区、地域住民で構成する連絡会を設置し、保護管理の考え方を共に検討しています。現在、保護管理計画の本格実施に先立ち、試験的なモデル実施を行っています。

中杉通りのケヤキ並木保護管理計画についての問合せは…
東京都第三建設事務所 補修課街路樹係
Tel. 03-3387-5384



n

e

杉並景観録

w

s

平成23年10月30日～11月15日「今」だから考えたい杉並の景観

「景観週間」を開催しました

たくさんの方々のご参加ありがとうございました

News

角川庭園
すぎなみ詩歌館まつり

10月30日



見学ツアー



荻久保泰幸氏による講演会

10月27日の秋燕忌（角川書店創設者の角川源義氏の命日）にちなんで、角川庭園・幻戯山房～すぎなみ詩歌館～で開催しました。角川庭園と詩歌館を巡る「見学ツアー」、角川庭園の周辺を歩く「まち歩きツアー」や、國學院大學名誉教授荻久保泰幸氏による講演会「角川源義の人となりと文学」を行ないました。また、シャレール荻窪（旧荻窪団地）で、「風の道」句会も同時開催しました。

News

大田黒公園周辺地区
景観まちづくりイベント

11月3日

午前は、「大田黒公園周辺ガイドツアー」を開催しました。大田黒公園を出発して、ツアーガイドによる解説を聞きながら周辺の文化史跡などを巡り、荻窪駅南口まで散策しました。

午後は、地元の茶道家神津紀子氏

による園庭での野点と、記念館において大原亜子氏によるピアノリサイタル「大田黒のピアノの音色を楽しむ秋のサロンコンサート」を行ないました。また、園庭では「草の根っこの写真の会」による「みんなの青空写真展」もあわせて行ないました。



サロンコンサート



野点

News

展示「残したい風景展」

11月7日～10日



1階ロビー展示



2階区民ギャラリー

例年、区内の商店街にご協力いただいて開催してきた「ストリートアート展」をロビー展示とし、区役所1階ロビーと2階区民ギャラリーで行いました。

杉並の残したい風景の絵や写真約50点を「NPO法人東京を描く市

民の会」の協力で展示しました。同時に、2階区民ギャラリーでは、工学院大学建築学部の学生による高円寺のまちづくりへの提案「高円寺の魅力デザインする」の模型とパネルを展示しました。

News

「高円寺の魅力デザインする」
展示・発表

11月11日～15日

11月11日の午後6時から、セッション杉並で、工学院大学建築学部の学生による高円寺のまちづくりへの提案発表会を開催しました。5つのグループが高円寺の魅力

最大限生かせるような都市建築設計を発表し、来場された方々と意見交換をしました。発表会で使用された模型とパネルは、15日まで、セッション杉並の1階ロビーで展示しました。



発表会



セッション杉並ロビー展示

Topics

『ある区マップ 阿佐谷・高円寺編』
を発行します！

平成22年3月に発行し、好評だった「すぎなみ景観ある区マップ」の第2弾を発行します。

今回は高円寺駅を中心に、阿佐谷から中野区境のまち歩きが楽しくなるような地図を作りました。

配布開始は平成24年4月を予定しています。どうぞお楽しみに！

（配布開始時期と配布場所は、広報すぎなみで改めてお知らせいたします）



※ デザインが一部変更になることがあります

Topics



このかるたは、平成21年から22年にかけて、角川庭園を訪れた皆様が詠んだ俳句447句の中から優秀作を選考し、杉並区制施行80周年を記念して、かるたに仕立てたものです。5月末頃から有料頒布の予定です。

杉並区制施行80周年記念
すぎなみ詩歌館かるた

【問い合わせ】

杉並区都市整備部まちづくり推進課景観係 tel 03-3312-2111